

カンボジア 工場労働者のための子宮頸がんを入口とした 女性のヘルスケア向上プロジェクト

Newsletter from SCGO-JSOG Project on Women's Health and Cervical Cancer

No. 23 September 2017

日本産科婦人科学会員の医師による実地指導

9月4～9日の間、杏林大学より西ヶ谷順子医師、筑波大学より中尾砂理医師が派遣され、プロジェクト対象のクメールソビエト病院、カルメット病院、国立母子保健センター病院での技術指導、ミニセミナーとして国際学会への抄録登録方法や抄録の作成、スライド構成についての講義や症例検討会を開催しました。

杏林大学産科婦人科
西ヶ谷順子(にしがや よしこ)

今回の派遣は2017年9月4日より9月9日までの日程で行われました。これまでは同施設から2人ずつ派遣となっておりましたが、今回は筑波大学の中尾砂理先生とご一緒させていただきました。違う施設の先生ということで始めは緊張感もありましたが、自分と同じくらいの年代の先生とご一緒できるという楽しみもありました。実際現地でもお互いの施設での診療などについて意見交換ができたことも収穫でした。

9月5日より3つの病院の視察および技術指導を行いました。印象としては、コルポや狙い組織診などの手技については身につけており、今度はその結果の解釈をどうするかというところで悩んでいるように思えました。（実際に病理の先生と細胞診・組織診の所見についてディスカッションを行う機会もありました）

水曜日と木曜日の午後には我々がレクチャーを担当しました。私の担当したレクチャーは第70回の日産婦学術講演会(仙台)のInternational Sessionへの抄録提出を目的とした内容ということで“How to make a good presentation”という題名で抄録作成やスライドの構成についての講義を行いました。講義のあとには実際に抄録作成を行いました。

中尾先生はCase conferenceとして診断・経過の異なる典型的な子宮頸がん2症例の提示をしていただきました。“ここ(カンボジア)ではどのように治療をおこなうか?”という観点でディスカッションを行いました。“もしこの人が妊娠していたらどのような治療法になったのか?”など発展した質問も多く、活発な意見交換が行われました。最後に“How to register to NCCN website”についての講義では参加者全員でスマートフォンを片手にNCCNへの登録をそれぞれに行いました。

今回の派遣で、自国以外の医療を見学させていただくことで改めて我々の医療を見直す良い機会となりました。また、カンボジアの医師の非常に高いモチベーションを感じることができ、多くの貴重な経験を行うことができました。

今回の派遣にあたり、同行し、全体の調整をおこなっていただきました松本安代先生、現地事務局の野中さんをはじめ、多くのスタッフの皆様へ深く感謝申し上げます。あわせてこのような貴重な機会を与えていただきました藤田則子先生、木村正教授に感謝申し上げますとともに、この派遣事業が引き続き日本産科婦人科学会の事業として継続されることでカンボジアの産科婦人科医療の発展に寄与されることを望みます。



(写真) クメールソビエト病院の医師達と



(写真) ミニレクチャーの様子



(写真) 感謝状授与式



(写真) 感謝状授与式後の集合写真

カンボジア子宮頸がん病理育成事業

9月2日～5日の間、東京医科歯科大学の沢辺元司教授がカンボジアを訪問し、病理部のある国立3病院(クメール・ソビエト病院、コサマック病院、カルメット病院)、保健科学大学解剖病理学教室を視察されました。

沢辺教授には、本邦で10月26日～11月20日に実施予定の「厚生労働省医療技術等国際展開推進事業:カンボジア子宮頸がん検診制度整備のための病理人材育成事業」のカンボジア人研修員の受け入れをして頂くことになっています。

JICA 本部からの視察

9月7日、JICA 本部 国内事業部で JICA 草の根パートナー型を担当しています石井郁代さんと JICA 草の根の審査員を務められています有識者の埼玉大学 飯島聰先生が、当プロジェクトを視察されました。カンボジア産婦人科学会のカナル学会長が、当プロジェクトの概要や進捗状況等を説明した後、プロジェクト運営等に関する意見交換が行われました。その後、西ヶ谷先生および中尾先生と実践部隊医師が行っている症例検討会や供与機材の視察をしました。

～ミニミニコラム～

地方での Continue Medical Education (CME)プログラム

カンボジア産婦人科学会(SCGO)は、ダノン社のスポンサーシップのプログラムに応募し、活動資金を得て、カンボジアの地方での CME プログラムを実施しました。

学会員および非学会員の産婦人科医を対象に、9月15-16日にバタンボン(参加者78名)、22-24日にコンポンチャム(参加者60名)、29-30日にカンポット(参加者57名)の3大都市にて、早産管理・産後出血・栄養に関する講演を行いました。

今回の地方での活動は、SCGOの活動のPRも兼ね備えており、これまで18州の産婦人科医としか連絡がとれませんでした。このプログラム実施により、40名が新規に学会員に加入し(現在、産婦人科学会の学会員は450名)、カンボジア24州全ての州の産婦人科医と連絡が取れるようになりました。

これからカンボジア産婦人科学会と地方在住の産婦人科医がよりスムーズに連絡を取り合い、学会としての活動や機能が強化されることを期待しています。まずは、11月に開催予定のカンボジア産婦人科学会年次学術集会へ地方在住の参加者が増えることが期待されます。



バタンボン
参加者78名(新規学会加入者15名)



コンポンチャム
参加者60名(新規学会加入者14名)



カンポット
参加者57名(新規学会加入者11名)

プロジェクトを取り巻く動き

- 9/1 : 癒着胎盤に関するプロトコール作成会議
- 9/2-9/9 : 松本安代医師カンボジア派遣
- 9/2-9/5 : 沢辺元司医師カンボジア視察
- 9/4-9/9 : 西ヶ谷順子医師、中尾砂理医師カンボジア派遣
- 9/12 : 癒着胎盤に関するプロトコール作成会議